

高い滅菌費 改善の壁に

歯削る機器使い回し

多くは歯削り機で、歯を削る医療機器を滅菌せずに使い回している実態が明らかになった。ウイルスや細菌を患者にうつす心配があり、国は1日、滅菌を徹底するよう都道府県などに通知した。しかし患者ごとの機器交換は多額の費用がかかるため、一部の歯科は及びばない。



医療部 渡辺理雄 医師

東京都内の病院の歯科に勤める歯科医は、他の病院から数年前に着任し、現場の不衛生さに「これはひどい」と驚いた。

歯を削る機器（ハンドピース）を使った後は、表面をアルコールで拭いて終わり。滅菌しないまま次の患者に使う。ゴム手袋も使い回した。改善しようと他の歯科医や歯科衛生士に働きかけたが、仕事が増えることを理由に拒まれた。近々、病院は辞める考えだ。

患者の血液や唾液が表面に付いたり、機器の内部に入り込んだりする。血液などにはウイルスや細菌が潜んでいる心配があり、消毒や洗浄では病原体を完全になくすることはできない。歯科で患者がウイルスな

滅菌パックに入った歯削り機（ハンドピース）。使う直前に取り出す



どこに感染したという国内の報告はないが、米国ではB型肝炎ウイルスの感染例がある。B型肝炎は、倦怠感や発熱など症状が出るまでに1〜3か月の潜伏期があり、原因の特定が難しい。国内での感染は「ない」のではなく、「分かっていない

い」という意見が正しい。このため日本歯科医学会の指針は、機器の使用後は、高温の蒸気で病原体を死滅させる滅菌処理を施し、患者ごとに滅菌された機器に交換することが勧められている。しかし、指針は必ずしも守られていない。

国立感染症研究所の東福英信室長の研究班が、特定の歯削り機に感染した患者の歯削り機を調べたところ、約34%で、残りの66%の歯科では滅菌せずに複数の患者に使用していた。

滅菌しない理由として多くの歯科医があげるのが、費用の高さだ。ハンドピースは1本約20万円。滅菌には1回30分程度はかかるため、患者ごとに交換するのは少なくとも倍の本数をそろえなければならない。

埼玉県草加市のある歯科医院では、ハンドピースを1〜2本とさえ、午前2午

後で滅菌を3回ずつ行っている。院長は「滅菌に手間がかかるが、歯科衛生士や歯科助手を多く雇っている。高熱の蒸気にかけるため、機器が傷み、修理回数も増える」と説明する。

患者ごとに機器を取り換えるという届け出た歯科医療機関は、診療報酬で新規患者は260円、再診患者は40円を毎回それぞれ上乗せして請求することが認められているが、「その金額ではとても見合わない」と同院長という。

国は歯科に滅菌の徹底を求めていると考えた。これが掛け声倒れに終わらないように、診療報酬による評価の議論と機器の取り扱いへの指導を、並行して進める必要がある。

ただ、全ての歯科が対策を講じるためには時間がかかる。患者ができる「自己消毒」は時間がかかり、患者が「自己消毒」を講じる際には時間がかかる。患者が「自己消毒」を講じる際には時間がかかる。

ハンドピースの取り換えを届け出ている歯科は約7000あり、歯科医で作る院内感染防止対策推進協議会のサイト（<http://kai.seibonshin.com>）が届け出施設の一覧表を掲載している。これら一覧表が実際に滅菌しているかどうか保証はできないが、歯科を運営の参考にはなる。

歯科は全国約1万施設のうち、98%が小規模な診療所だ。雇われている歯科衛生士などの立場は弱く、院内のチェックが利きにくい。歯科の姿勢を改める一番の特効薬は、患者の厳しい目かもしれない。

